

【環境関連の地域・社会貢献の取組状況】

(1) 親子で感じる、身近な自然のすばらしさ

5月に、親子で徳島中央公園に遠足に出かけました。水際公園や水道橋を通り、助任川を眺めて歩きます。

「あっ、いま魚がみえた！ほら！」「本当、魚が見えるくらい水がきれいね。」

「この川には、幼稚園で流した水や、みんなのおうちから流れてくる水も流れてくるからね。」
「お魚が嫌な水は流さん方がいいな。」「家庭でも気をつけます。」など、川に関する話題が飛び交っていました。

11月には、保護者ボランティアと一緒に、眉山登山に挑戦です。頂上までの道のりには、様々な出会いがあります。頑張る自分との出会い、自然の美しさやさしさ、そして恐怖心や厳しさとの出会い、眉山に生息する木々や動植物との出会い、決して楽しいだけではないこの登山は、大きく心が動きます。自然の中では、自然の大きさや厳しさに出会いながらも達成感を味わうことができる貴重な経験です。このような経験から、自然の立場になって考え、自然に自分たちが合わせていくことの大切さも学びました。身近にある自然に向き合い、地域のこ・ものを大切にしようとする気持ちを育みます。



(2) 令和4年度食品ロス削減の取組への協力

消費者庁が推進する、食品ロス削減の普及・啓発に向けて、消費者庁の依頼を受け、食品ロスに関する絵本の読み聞かせと事前事後のアンケート調査に協力しました。

消費者庁から、食品ロス削減をテーマにした絵本が年長児の家庭に配布され、各家庭で読み聞かせを行いました。幼稚園でも読み聞かせをしたところ、「家でも読んでもらった」「食べものを残して、かわいそうだったよ」と感想がでました。

これをきっかけに、「お弁当は残したらもったいないよね」「食べられるだけにしてもらった」「食べ物を捨てるのはもったいない」などの声が子どもたちから聞かれるようになりました。保護者からも「使う分だけ買うようにしました」「食べられる量に食事を調整しました」という声も聞かれました。自然や食品、地球環境、自分たちの生活、この関連や循環を知ることでエコマインドを育むことにつながりました。

